

品番：S3-**** 品名：GENGEN eLF エルフカラー

(水性顔料着色塗料)

仕 様 書

玄々化学工業株式会社

ホルムアルデヒド放散等級

F [(社)日本塗料工業会登録 登録番号 G01238]

F は建築基準法における屋内に面積の制限なく使用できる建築材料を示す規格です。

特長

極めて塗りやすい塗料です。

刷毛むらが目立ちません。

塗りつきむらが目立ちません。

環境を配慮した水性系でほとんど臭いがありません。

塗料の乾燥が速いため、短時間で塗り重ねが可能です。

半ツヤケシ。

水性のため不燃性で、引火性がない。

TVOC 0.1%未満

エコマーク認定商品(認定番号 07 126 044)

食品衛生法規格基準適合品

学校環境衛生基準適合

用途

屋内木部全般着色塗料

塗装方法

刷毛塗り、ローラー等

カラーバリエーション

原色		配合色	
品番	色名	品番	色名
S3-10	カラレス	S3-1100	ライトグレー
S3-1000	ホホワイト	S3-2900	レッドウッド
S3-1500	ブラック	S3-3500	オーク
S3-2000	レッド	S3-3700	チーク
S3-2700	ブラウン	S3-3900	パイン
S3-4000	イエロー	S3-4900	メイズ
S3-6000	ブルー	S3-5900	グリーンアンバー
		S3-7500	オールナット

耐汚染性試験

汚染物質	エルフカラー	A社	B社
水			
赤クレヨン			
紅茶			
コーヒー			
醤油			
植物油		痕跡	痕跡
マーガリン			
ケチャップ			
口紅		色残り	色残り
ソース			
台所用洗剤		色取れ	痕跡

塗装工程

適用範囲：内装木部全般(未塗装の場合)

仕 様：水性 着色仕上げ

工程	使用材料 / 配合比 (重量比)	塗布量 (1回)	塗り重ね 乾燥時間 (20)
1	素地ごしらえ	サンドペーパー P180 ~ P220	
2	下塗り	eLF エルフカラー (S3 ライン) 100	40 g ~ 60 g/m ² 1時間以上
3	毛羽取り研磨	サンドペーパー P320 ~ P400	
4	上塗り	eLF エルフカラー (S3 ライン) 100	40 g ~ 60 g/m ² 24時間以上

仕 様：水性 着色クリヤー仕上げ

工程	使用材料 / 配合比 (重量比)	塗布量 (1回)	塗り重ね 乾燥時間 (20)
1	素地ごしらえ	サンドペーパー P180 ~ P220	
2	着色	eLF エルフカラー (S3 ライン) 100	40 g ~ 60 g/m ² 塗布後ウエスにて全面拭き取り 1時間以上
3	毛羽取り研磨	サンドペーパー P320 ~ P400	
4	下塗り	eLF 木部内装用 (SC-45-00/50/99) 100 水 0 ~ 30	60 g ~ 80 g/m ² 4時間以上
5	毛羽取り研磨	サンドペーパー P320 ~ P400	
6	上塗り	eLF 木部内装用 (SC-45-00/50/99) 100 水 0 ~ 30	60 g ~ 80 g/m ² 6時間以上

eLF 木部内装用(SC-45-00/50/99)は F 適合品です。

着色クリヤー仕上げの場合、さらに上質な仕上げを希望される場合は eLF 木部内装用を 3 回塗装して下さい。

塗替えの場合には、十分に研磨して旧塗膜を完全に除去して下さい。着色仕上げ及び着色クリヤー仕上げの塗装工程はそれぞれ上記塗装工程を参照して下さい。

条件によって塗布量、乾燥時間は変わりますので目安として下さい。

注意事項

塗料使用後は必ず密栓をし、冷暗所に保管して下さい。(凍結しない場所)

ご使用前には塗料を十分攪拌してからご使用下さい。

塗布量が多すぎると乾燥が著しく遅くなり、ツヤムラ・乾燥不良の原因になりますのでご注意下さい。又、塗布量が少なすぎると、塗料の性能が十分出ない可能性があります。標準塗布量を遵守して下さい。

塗布量は、素材の種類によって異なりますので、あくまでも目安として下さい。

塗装前に、素材の汚れ、ヤニ、ワックス等を除去してから塗装して下さい。

5 以下でのご使用は避けて下さい。(乾燥時間が著しく遅くなります)

塗装時に使用した道具は、温水石鹼で洗浄後、溶剤(アセトン)にて洗って下さい。

どのような場合でも換気に十分注意して下さい。

決して飲まないようにして下さい。もし、誤って飲んでしまった場合には、直ちに医師の処置を受けて下さい。

目に入らないようにして下さい。目に入った場合は、直ちに大量の水で目を洗い医師の処置を受けて下さい。

皮膚についた場合には、石鹼で水洗いして下さい。

初めて本製品をご使用される場合には、必ず目立たない場所で試し塗りを行って下さい。

他社製品との併用についても同様に試し塗りを行って下さい。

製品の取り扱いに当たっては、安全データシート(SDS)に従って下さい。

廃棄方法

少量の場合には、吸収材(新聞紙等)に染み込ませ乾燥後適切な場所に廃棄して下さい。

量が多い場合には、専門の処理業者に依頼して廃棄して下さい。

水路や下水道には流さないで下さい。